

地形は人を生む？
「龍の子太郎」という作品がある。農作物が取れない急峻な地形の村に住む妊婦が、3匹のイワナを独り占めにして食べってしまった罰として龍に姿を変えられ、子どもである龍の子太郎が母を捜し歩く姿が描かれています。
様々な場所を苦勞しながら捜し歩き、途中たどり着いたのは真つ平らな田んぼが広がる肥沃な大地。そこに住む人々はともにおおらかに龍の子太郎を快く迎え入れ、彼と彼の故郷に住む人々を迎え入れる申し出までする。彼はその申し出に感謝しながらも、母親を探す旅を続ける...そんな物語です。厳しい土地に住む人は生きることに精一杯で日々の生活に追われてしましますが、肥沃な地域に住む人は豊かさから他人を受け入れる余裕が生まれる。例外も多いとは思いますが、これは現代社会の根底にも少しだけ残っている気がするのです。

川沿いの肥沃な低地で田を耕し、台地上の陽が良く当たる「原」で畑を耕す、大きな山や急峻な谷に陽をさえぎられることなく暮らすことのできた瀬谷では安定した生活を営むことが出来たことでしょう。そしてそこに住む人々は、龍の子太郎たちを迎え入れた人々のようにおおらかな人柄だったのではないかと思います。そんな土地柄、人柄は現在にも受け継がれているのではないのでしょうか。
筆者が、西部公園緑地事務所（現在は北部公園緑地事務所に統廃合）に勤務していた際、瀬谷区を含む横浜市西部の5区750公園の管理を行っていました。日々、公園の管理や利用者へのマナーへの苦情、要望が寄せられていましたが、瀬谷区からの苦情、要望の数は他の区の数よりも圧倒的に少なく、そしてその内容も大きく異なっていました。ある区、と言うよりも多くの区では「こっちは税金を払っているのだから、ちゃんと取り締められ」、「行政がすべてをやるべきだ」と言う意見が多



くありました。「区民が協力すればこうなるのでは」という提案の多い区もありましたが、瀬谷区では、行政任せにしない要望が多くありました。例えば、公園にたむろする子どもたちのへの対応について「自分たちで見回りや注意をしてみただけはどううまくいかなかったのか」といったご意見をいただきました。このようなことから、瀬谷区民の人任せにしない誠実な気質が伺えました。
瀬谷区役所に異動してから地域の方にこの話をすると押しなべて、「そうだろう。瀬谷の人たちはみんないいやつなんだ。」という言葉が返ってきました。
もし、この世に龍の子太郎と母親の龍がいるのであれば、瀬谷区に住むのかもしれない。

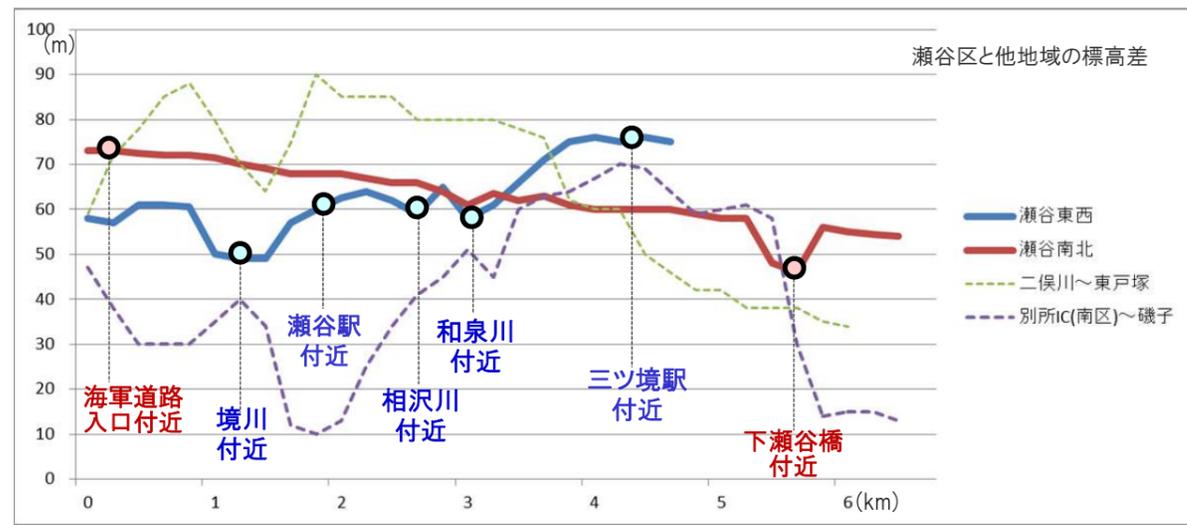
編集後記
表紙の標高図で例示した別所インターチェンジから磯子のルート、実は筆者の生活圏です。上大岡駅(図の2km地点)から歩いて1kmの自宅へは、ほぼ平坦な道が300mのみで、あとはず〜っと登りが続きます。家の前にはなんと110段の階段がそびえたち、毎日ちょっとした登山をしている気分です。登山のご褒美として、階段の上から、三ツ境駅から眺めるよりもちょっと小さめの富士山を眺めることができます(この背景写真です)。
■地域づくり通信のバックナンバーは、瀬谷区HPでご覧いただけます。
【お問い合わせ先】
瀬谷区役所 地域振興課
地域力推進担当
TEL 045(367)5789
FAX 045(367)4423
〒246-0021
横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地
発行/平成28年3月

地域づくり 通信 第27号 平成28年3月

地形から瀬谷区を読み解く

瀬谷区は「平坦」VS「坂が多い」!?

平成27年に実施した区民意識調査で瀬谷の良いところ、良くないところを訊くと、「坂」について多くの方から対照的な答えが寄せられました。
瀬谷区の良いところとして「平坦」、「坂が少ない」など坂が少ないことをあげた人と、瀬谷区の良いくないところとして「坂が急」、「移動が大変」と坂が多いことをあげた人が混在しているのです。同じ区内でこれだけ評価が異なることも珍しいと言えるでしょう。なぜこのような結果になったのでしょうか?
実は、瀬谷区特有の地形が生んだ意識の違いが原因なのです。



東西に坂が多く、南北になだらかならぬ
上図は、瀬谷区及び他区の道路上の標高をグラフ化したものです。青色は厚木街道で三ツ境駅付近から境川まで区をほぼ東西に進んだ図、赤色は環状4号線で上瀬谷からひなた山まで区をほぼ南北に進んだ図です。東西と南北で高低差に大きな違いがあることがわかります。
これは境川、相沢川、和泉川、大門川、阿久和川という5つの川が南北に流れており、長い時間をかけ相模原台地を削ったことにより、区の東西に谷、すなわち坂が生まれたと言われています。「近所のあの川がこんな坂を作ったの?」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

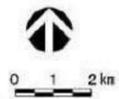
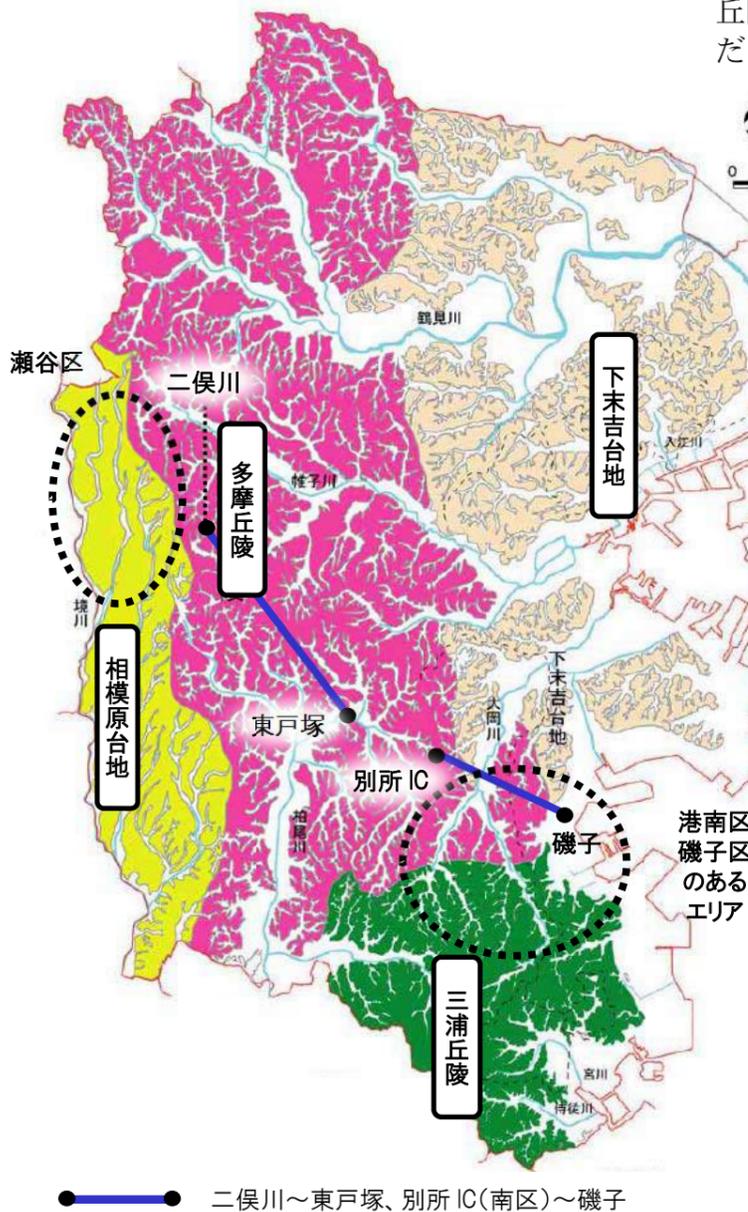
横浜の他の地域との違いは？

前ページの図では、隣の旭区から戸塚区につながる地形と海側の港南区から磯子区につながる地形を表しました。旭区二俣川から戸塚区東戸塚までは坂が長く、標高差も大きくなっており、短い坂が連続する瀬谷の地形との違いがみられます。また、港南区別所インターチェンジから磯子駅までは600mの距離で45mの標高差を上り下りする場所があるなど、勾配がより厳しくなり、ちょっとした登山気分です。暮らしていると瀬谷区は坂が多いと感じるかもしれませんが、横浜市18区の中では瀬谷区は比較的坂が少ない区なのです。

横浜市外の人が横浜をイメージする言葉は「海」と言えますが、横浜市民はそれに加え、「坂」と言う言葉をイメージする方も多いと思います。

横浜市内の多くの地域では西へ行っても、東へ行っても、南に行ってもどこに行っても坂が待ち受けていますが、瀬谷区の場合は他の地域と少し異なる地形（東西は坂、南北はなだらか）となっています。なぜこのような地形になっているのでしょうか。

大きな違いは、台地と丘陵の違い（下図参照）です。瀬谷区は相模原台地に位置し、前ページの図にあった港南区や磯子区は、台地よりも丘や山が多い丘陵に位置しています。特に市の南部は急峻な地形の三浦丘陵に位置しており、同じ横浜市でもこれだけの違いを生み出しています。



これは
ピンクと緑のところは丘陵、つまり坂が多いところだね！
横浜は、「丘陵」と「台地」が半分ずつくらいだね。

瀬谷と他区の標高差（単位：m）

| | 最高 | 最低 | 高低差 |
|-------|-----|----|-----|
| 瀬谷区 | 91 | 44 | 47 |
| 旭区 | 98 | 18 | 80 |
| 保土ヶ谷区 | 97 | 0 | 97 |
| 磯子区 | 153 | 0 | 153 |

※数字はおおよその目安です

区によってこんなに高低差が違うんだね！



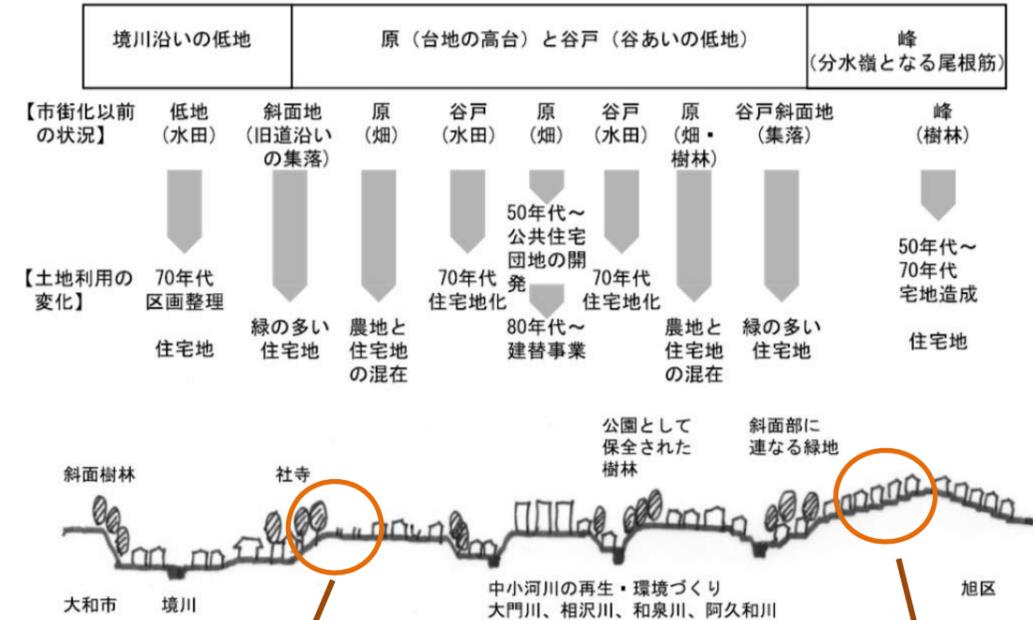
地形と生活

昔の人たちは瀬谷の地形をどのように生かしていたのでしょうか。図のように、川を挟んだ両側の丘に囲まれた場所を谷戸（やと）と呼びますが、川の近くの低地は水田として利用し、民家は水田よりも一段高い場所に構えられ、生活道路である里道がありました。今でもそのような場所に農家の方の家屋敷が点在しています。

谷戸から一段高くなった平地は「原」や「野（や）」と呼ばれ、畑作などが行われていました。かまくらみちなどの古道もこの場所を中心に整備されていました。現在でも阿久和西の「原」や「東野」といった地名として残っています。

◇東西断面で見たまちの成り立ち（模式図）

（出典：横浜市都市計画マスタープラン・瀬谷区プラン）



瀬谷駅はこのあたりだね！

三ツ境駅はこのへんかしら。



この面を絵にしてみると…

